



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

### ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### ▲注意

- 思わぬケガや事故につながりますので、下記事項をお守りください。
  - ・当商品は屋内専用です。屋外や浴室内などに使用しないでください。
  - ・店舗など使用頻度の激しい所では使用しないでください。
  - ・丸棒手すりは親柱端部用ブラケット、接続ブラケットの奥まで差込んで固定してください。奥まで差込んでないと丸棒手すり脱落の原因になるおそれがあります。
  - ・ねじを固定する際には、指定の下穴をあけてください。下穴をあけないと材割れ・取付け強度不足により手すり脱落の原因になるおそれがあります。

### ■取付け前の確認

#### 【検品について】

●納入時に各部材を必ず検品してください。万一、製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。（取付け完了後の色調・キズなどによる交換はできません。）

### ■取付け上のお願い

#### 【使用する工具の確認】

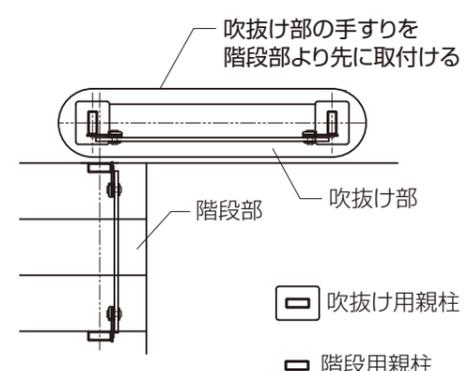
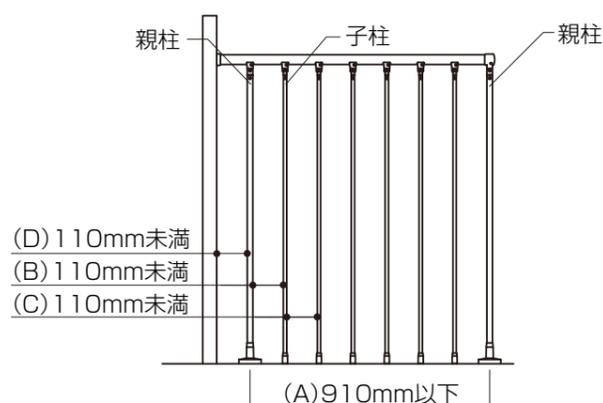
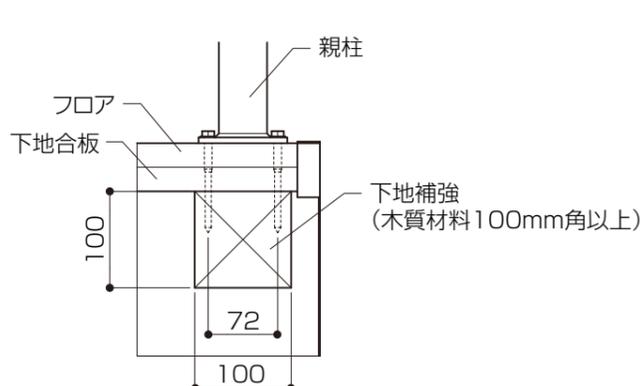
- 電気ドライバー（クラッチ付き）…部材・部品取付け用
- 電気ドライバー（インパクト）…コーチボルト取付け用
- ソケットレンチおよびソケット（M8頭13）…コーチボルト取付け用
- キリ…φ6（親柱取付け用）、φ3.5（子柱下カバー取付け用）、φ2.5（丸棒手すり取付け用）
- スケール、水準器、下げ振り…寸法出し用、水平・垂直出し用

#### 【取付け時の確認】

- 本製品の組立て・取付け時にはクラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転・ねじの頭がとぶ・ねじ頭がつぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱のねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、部材の垂下がり・ゆがみ・踏み鳴りなどの原因となります。

#### 【寸法・構造・その他の確認】

- 親柱を取付ける下部には100mm角以上の補強材（梁・大引きの代用となるもの）を使用してください。階段の踊り場を取付けるときも親柱の下部に100mm角以上の補強材（梁・大引きの代用となるもの）が必要となります。
- 親柱の柱ピッチ（A）は910mm以下で納めてください。支柱間（親柱と子柱間（B）、子柱と子柱間（C）、又支柱と壁の間（D：壁と親柱間、壁と子柱間）の内々寸法は110mm未満にしてください。支柱の間から転落・落下事故の発生につながるおそれがあります。
- パネルタイプの階段用手すりと吹抜け用手すりを直行して取付ける場合、吹抜け用手すりを先に取付けてください。階段用手すりを先に取付けると吹抜け用手すりのパネルが取付けできません。
- 吹抜け用手すりを階段部分に取付けすることはできません。（踊り場には取付けできます。）
- 木造在来、2×4用です。鉄骨造納まりには直接対応しておりませんので、補強材（梁・大引きの代用となるもの）を施工部位の間に取付けてください。
- 樹脂パネルはガラスに比べ、キズ・擦れ・汚れなどが付きやすい材料です。取扱いには十分注意してください。

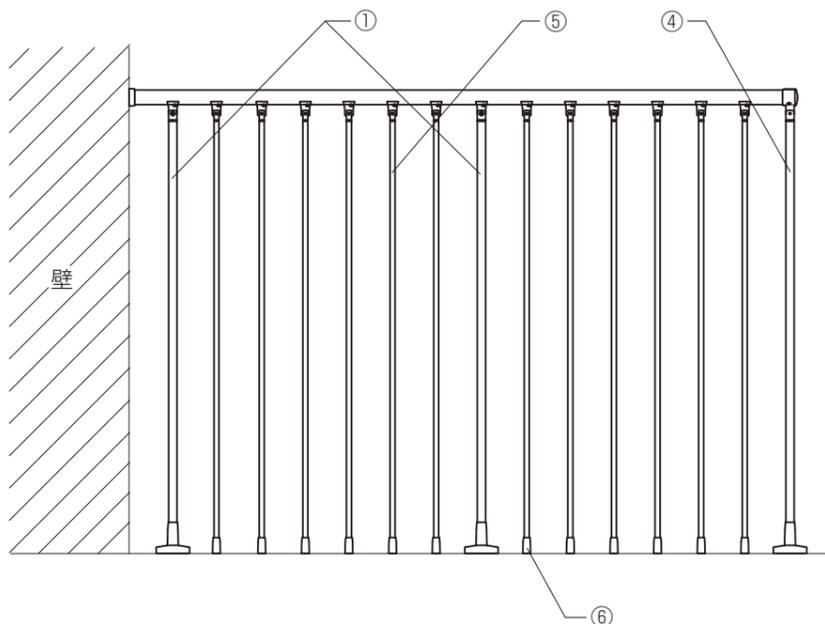


### ■取付け後の確認

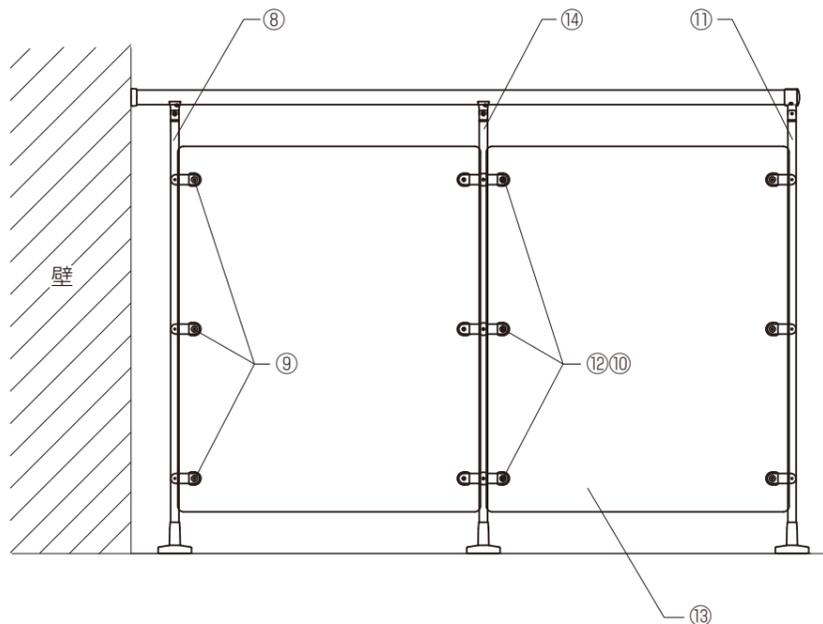
- 手すり取付け後、部品・部材にガタツキがないか、ねじの締付けを点検してください。
- 手すり取付け後、ねじにバリが出てないか指で触って点検してください。

■各部の名称と梱包セット内容

■吹抜け用縦棧タイプ



■吹抜け用パネルタイプ



製品名称	部品名称	数量	備考
親柱 連続用 1本セット	① 縦棧タイプ連続用親柱	1本	
	② 親柱固定用ねじセット	1セット	コーチボルトM8×100 4本 平座金呼び径8 4個
	③ 手すり固定用ねじ	2本	丸皿タッピングφ3.5×20
親柱 端部用 1本セット	④ 縦棧タイプ端部用親柱	1本	
	② 親柱固定用ねじセット	1セット	コーチボルトM8×100 4本 平座金呼び径8 4個
	③ 手すり固定用ねじ	2本	丸皿タッピングφ3.5×20
子柱 3本セット	⑤ 縦棧タイプ子柱	3本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑥ 子柱下カバー	3個	
	⑦ 子柱下カバー固定用ねじ	3本	ナベタッピングφ4.5×30
子柱 4本セット	③ 手すり固定用ねじ	6本	丸皿タッピングφ3.5×20
	⑤ 縦棧タイプ子柱	4本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑥ 子柱下カバー	4個	
子柱 5本セット	⑦ 子柱下カバー固定用ねじ	4本	ナベタッピングφ4.5×30
	③ 手すり固定用ねじ	8本	丸皿タッピングφ3.5×20
	⑤ 縦棧タイプ子柱	5本	ガタツキ防止キャップ付き
子柱 5本セット	⑥ 子柱下カバー	5個	
	⑦ 子柱下カバー固定用ねじ	5本	ナベタッピングφ4.5×30
	③ 手すり固定用ねじ	10本	丸皿タッピングφ3.5×20

製品名称	部品名称	数量	備考
親柱 壁付用 1本セット	⑧ パネルタイプ 壁付用親柱	1本	
	② 親柱固定用ねじセット	1セット	コーチボルトM8×100 4本 平座金呼び径8 4個
	③ 手すり固定用ねじ	2本	丸皿タッピングφ3.5×20
親柱 端部用 1本セット	⑨ パネル取付け用 スペーサー1	1セット	パネル取付け用スペーサー1 3枚 ナベM5×12 3本
	⑩ パネル緩衝材 スペーサー	1セット	パネル緩衝材スペーサー 3個 パネル緩衝ゴム 3個 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 3個 セットキャップカバー 3個 セットキャップボルト 3本 ボルト用スペーサー 3個
	⑪ パネルタイプ 端部用親柱	1本	
親柱 連続用 1本セット	② 親柱固定用ねじセット	1セット	コーチボルトM8×100 4本 平座金呼び径8 4個
	③ 手すり固定用ねじ	2本	丸皿タッピングφ3.5×20
	⑨ パネル取付け用 スペーサー1	1セット	パネル取付け用スペーサー1 3枚 ナベM5×12 3本
子柱 追加用 1本セット	⑩ パネル緩衝材 スペーサー	1セット	パネル緩衝材スペーサー 3個 パネル緩衝ゴム 3個 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 3個 セットキャップカバー 3個 セットキャップボルト 3本 ボルト用スペーサー 3個
	⑤ 縦棧タイプ子柱	1本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑥ 子柱下カバー	1個	
吹抜け用 パネル	⑦ 子柱下カバー固定用ねじ	1本	ナベタッピングφ4.5×30
	③ 手すり固定用ねじ	2本	丸皿タッピングφ3.5×20
	⑬ 吹抜け用パネル	1枚	

## 取付け順序

【縦横タイプ】（パネルタイプはP.5～P.6を参照してください。）

### 1 割付け

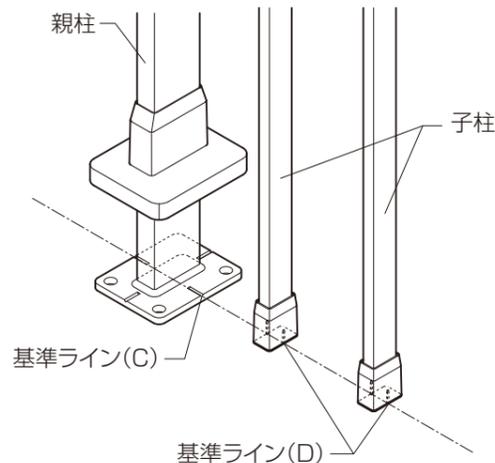
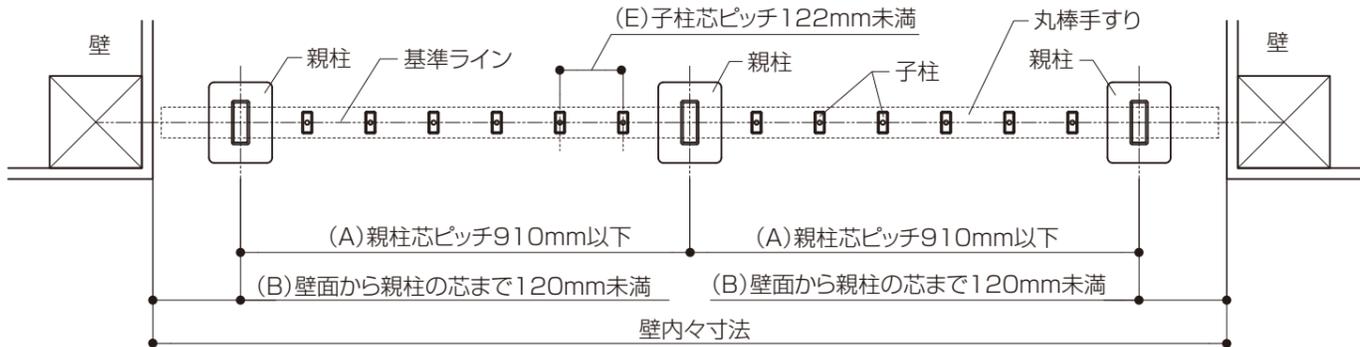
#### ■壁と壁の間に取付ける場合

①親柱の取付け位置を決めます。このとき、親柱の芯ピッチ（A）は、910mm以下になるようにします。

又、壁面と親柱の芯までの距離（B）についても120mm未満になるようにします。（壁面と親柱間内々寸法は110mm未満になります。）

②子柱の取付け位置を決めます。親柱の基準ライン（C）と同一のラインに来るように、子柱の基準ライン（D）を合わせます。

このとき、子柱の芯ピッチ（E）は122mm未満となるようにします。（子柱間内々寸法は110mm未満になります。）

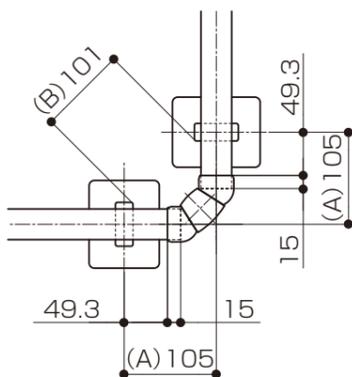
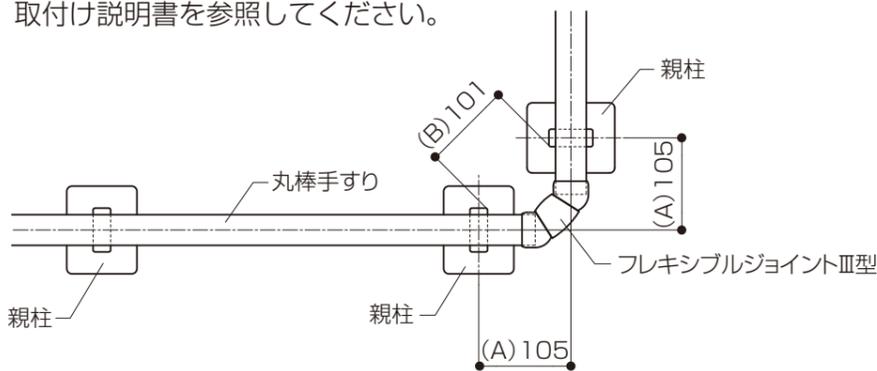


### 吹抜け側

#### ■コーナー部に取付ける場合

●親柱の中心（A）が105mmになるようにします。このとき、親柱間のすき間（B）は101mmとなります。

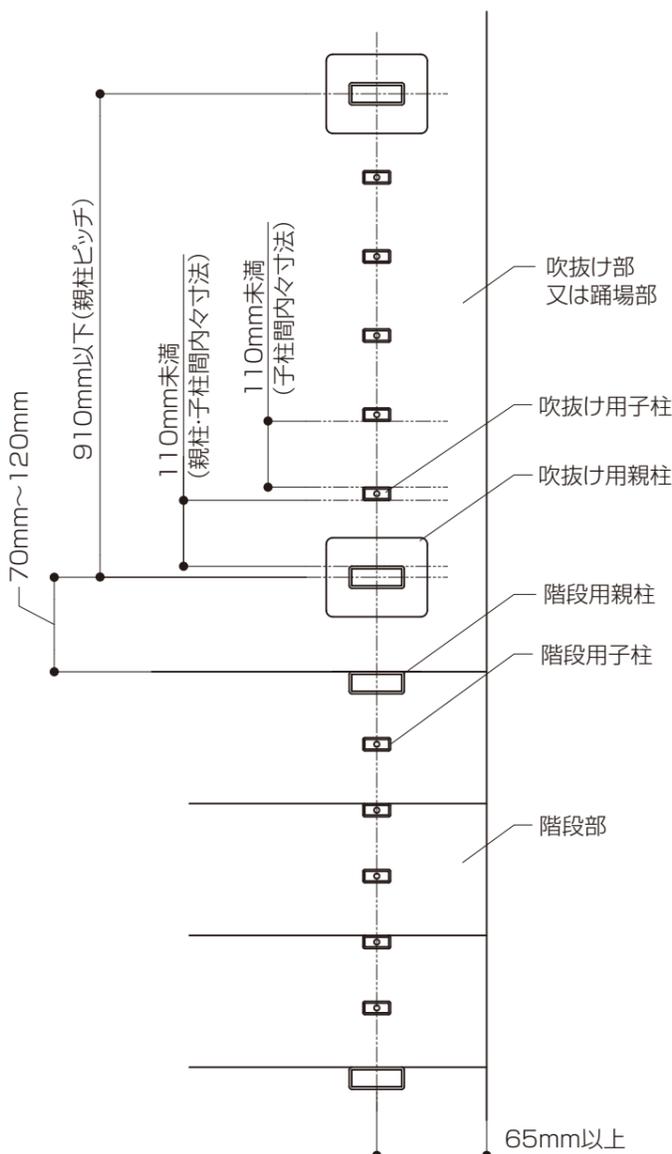
コーナー部にはフレキシブルジョイントⅢ型を使用します。フレキシブルジョイントⅢ型の取付け方法は「手すり丸型」の取付け説明書を参照してください。



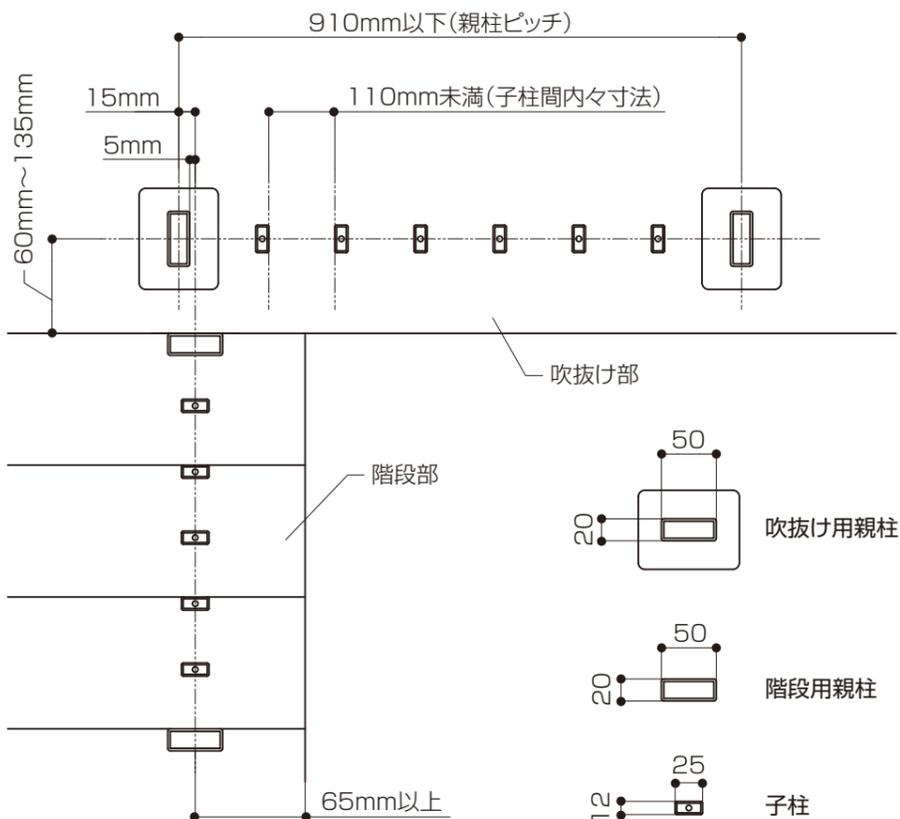
※親柱間のすき間(B)は必ず110mm未満になるように取付けてください。

#### ■階段手すりと吹抜け部が連続する場合

【パターン1】階段手すりと吹抜け手すりが同一ラインに取付く場合

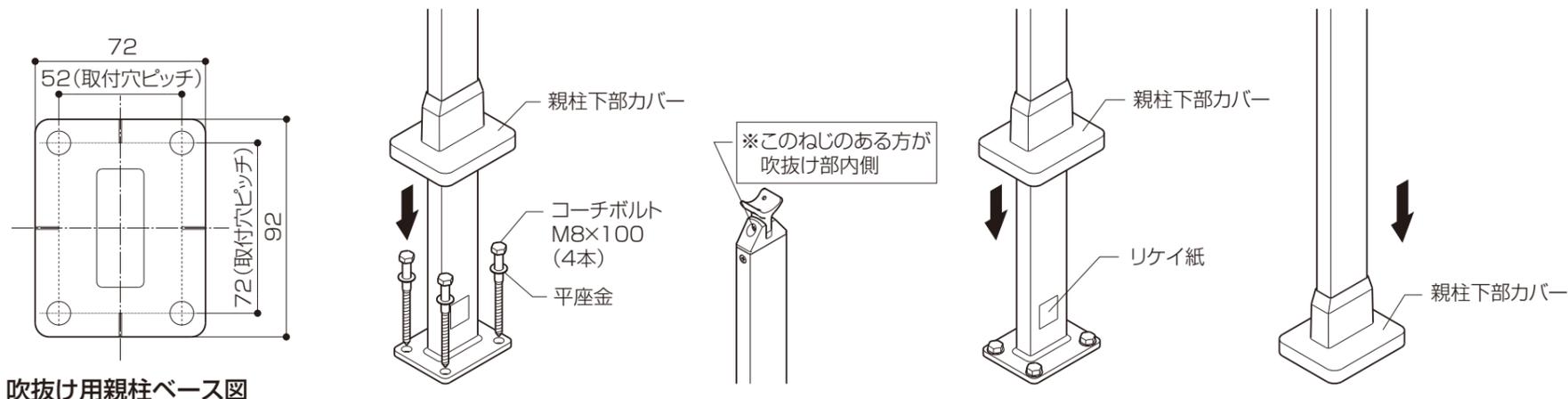


【パターン2】階段手すりと吹抜け手すりが直行して取付く場合



## 2 親柱の取付け

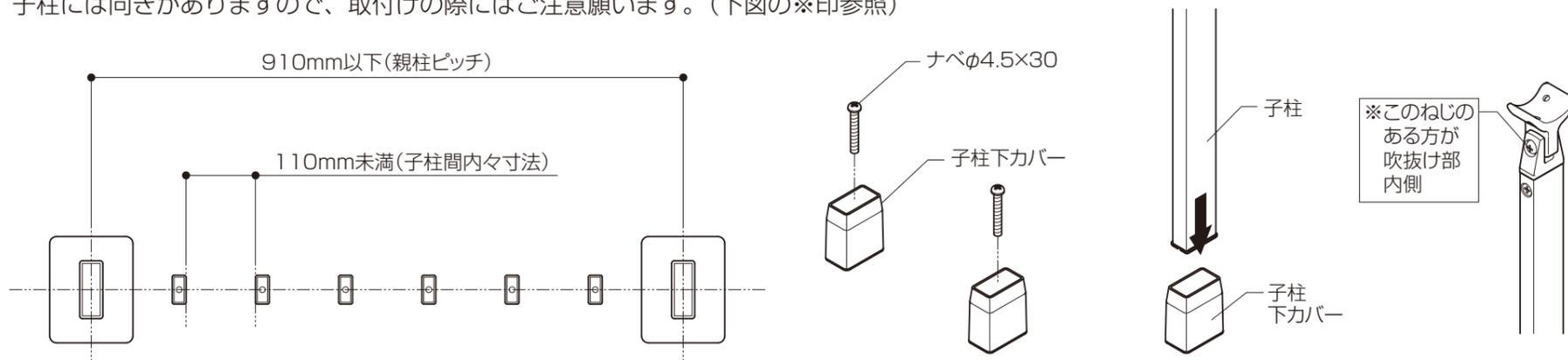
- ①親柱の割付けにしたがって親柱の取付け位置を決めた後、親柱ベース図の固定穴の位置に下穴(φ6mm)をあけます。
- ②コーチボルトに平座金(呼び径8)を入れ、4本のコーチボルトを床に取付けます。  
親柱には向きがありますので、取付けの際にはご注意ください。(下図※印参照)
- ③両面テープ(片面)のリケイ紙をはがし、親柱下部カバーをベースまで下げて固定します。



吹抜け用親柱ベース図

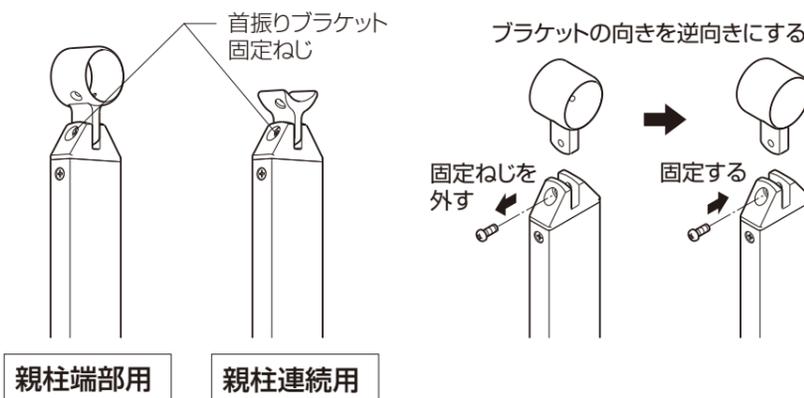
## 3 子柱の取付け

- ①子柱の割付けにしたがって子柱の取付け位置を決めた後、子柱下カバーの取付けねじ止めの位置にあらかじめ下穴(φ3.5mm)をあけてからねじ(ナベφ4.5×30)で固定します。
- ②吹抜け用子柱を下カバーに差込みます。  
子柱には向きがありますので、取付けの際にはご注意ください。(下図の※印参照)



## 4 丸棒手すり(φ35)の取付け

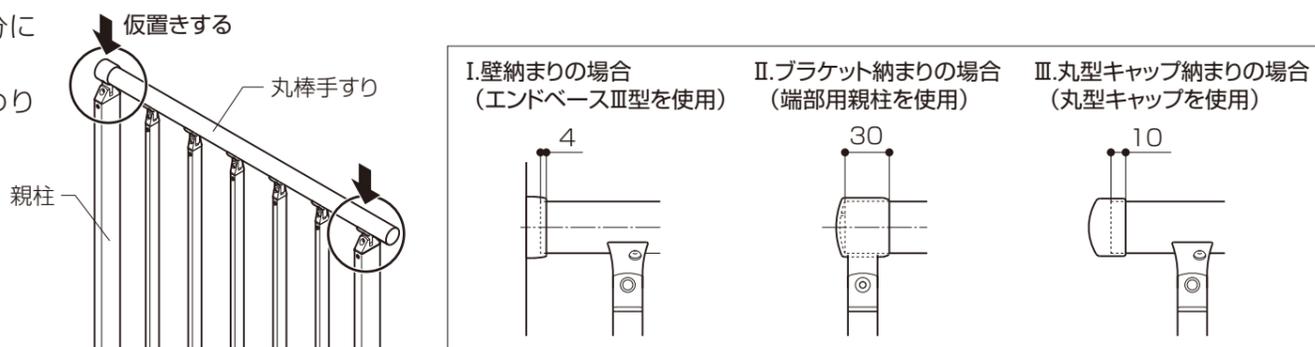
- ①首振りブラケットを固定しているねじをゆるめ首振りブラケット部が水平になるように固定します。  
親柱端部用には方向性があります。向きが違う場合、首振りブラケット固定ねじを外しブラケットを逆向きに取付け直します。



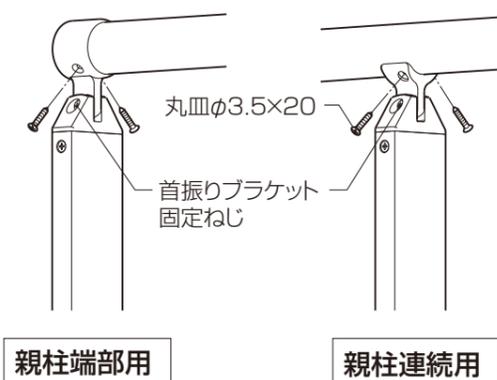
親柱端部用

親柱連続用

- ②丸棒手すりを親柱の首振りブラケット部分に仮置きし手すりの寸法出しを行います。  
I、II、IIIの納まりで手すりの長さが変わります。(右図参照)



- ③丸棒手すりに親柱の首振りブラケットとねじ止め部下穴(φ2.5mm)をあけ、丸棒手すりと首振りブラケット部をねじ(丸皿φ3.5×20)で固定します。丸棒手すりと首振りブラケットの間にすき間が出ないように、両側から調整しながらねじを取付けます。
- ④丸棒手すり固定後、首振りブラケットを固定しているねじを本締めします。



親柱端部用

親柱連続用

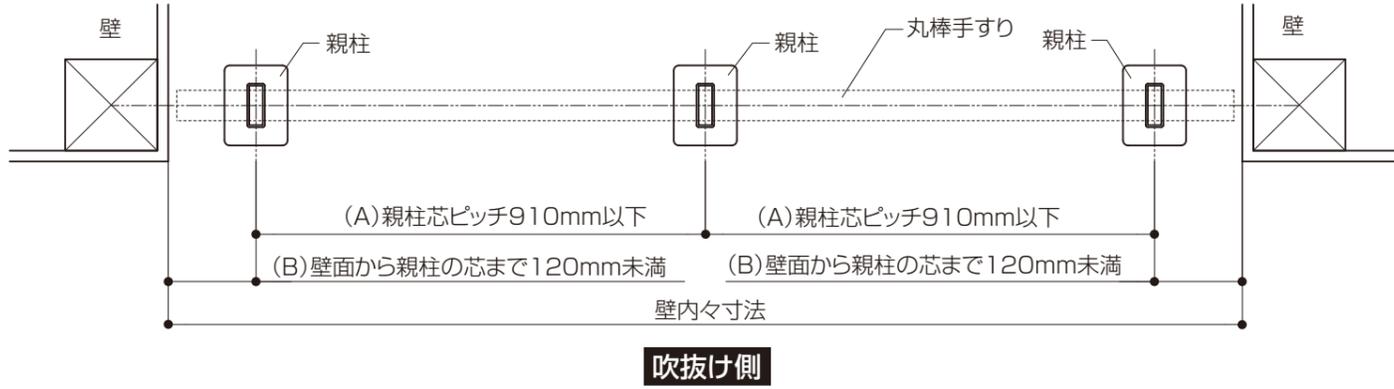
※エンドベースⅢ型、丸型キャップの取付け方法は「手すり丸型」の取付け説明書を参照してください。  
※丸棒手すりを接続する場合はP.7を参照してください。

【パネルタイプ】（縦横タイプはP.3～P.4を参照してください。）

■ 1 割付け

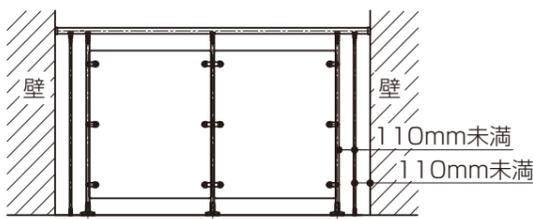
■ 壁と壁の間に取付ける場合

● 親柱の取付け位置を決めます。このとき、親柱の芯ピッチ (A) は、910mm以下になるようにします。又、壁面と親柱の芯までの距離 (B) についても120mm未満になるようにします。（壁面と親柱間内々寸法は110mm未満になります。）



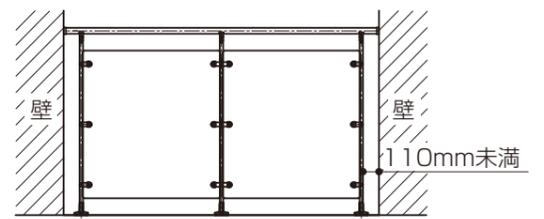
● I. パネルを組合わせて納めても、親柱と壁に110mm以上のすき間が生じてしまう場合

・ 壁と親柱の間に子柱を入れて、柱同士の内々寸法を110mm未満になるように納めます。



● II. 特注パネルで納める場合

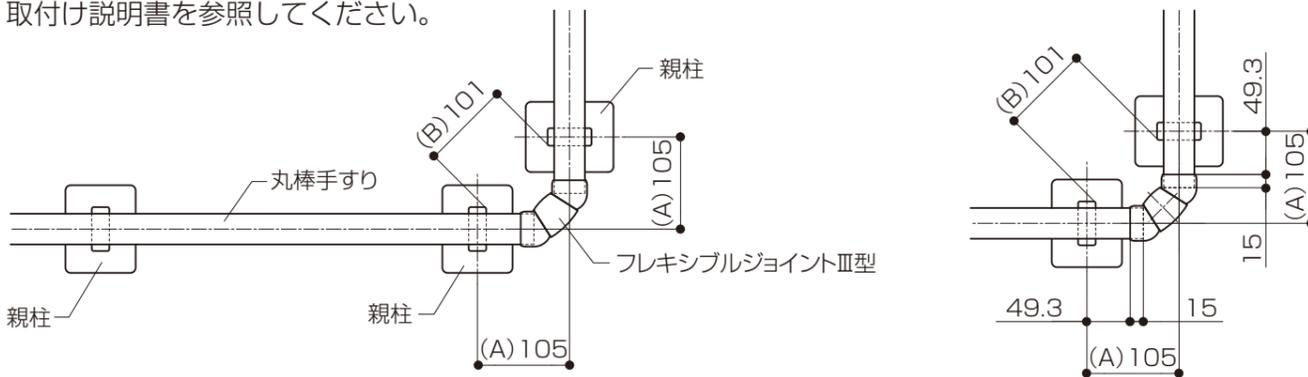
・ 壁と親柱間の内々寸法を110mm未満となるように納めます。



■ コーナー部に取付ける場合

● 親柱の中心 (A) が105mmになるようにします。このとき、親柱間のすき間 (B) は101mmとなります。

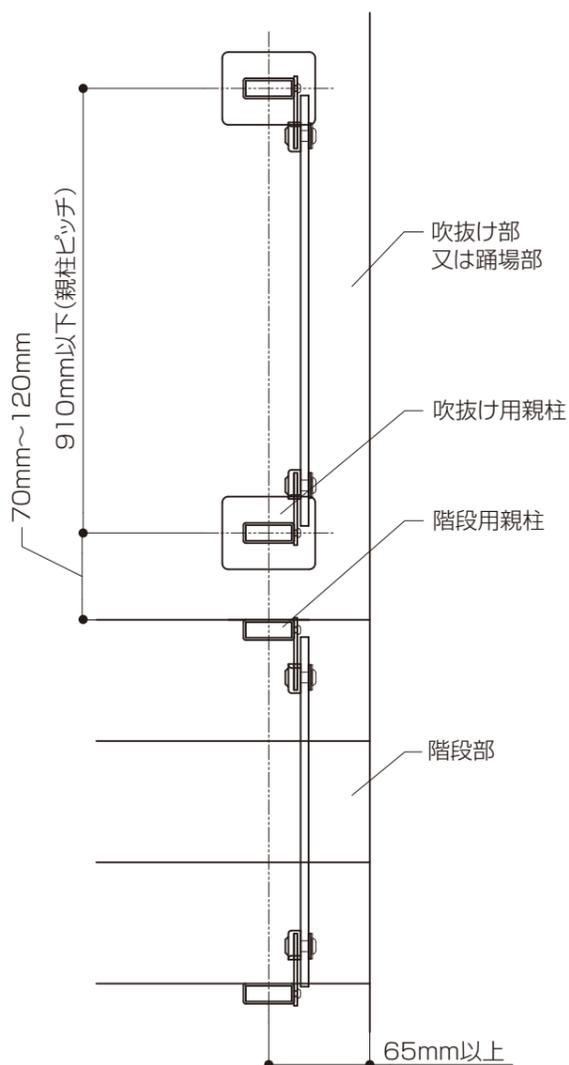
コーナー部にはフレキシブルジョイントⅢ型を使用します。フレキシブルジョイントⅢ型の取付け方法は「手すり丸型」の取付け説明書を参照してください。



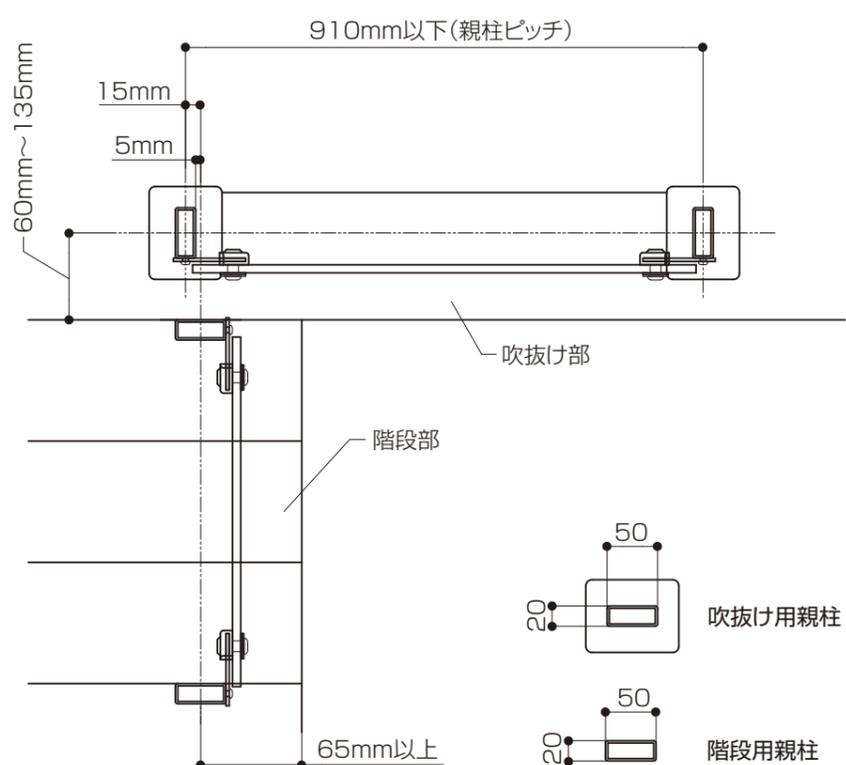
※ 親柱間のすき間 (B) は必ず110mm未満になるように取付けてください。

■ 階段手すりと連続する場合

【パターン1】 階段手すりと吹抜け手すりが同一ラインに取付く場合

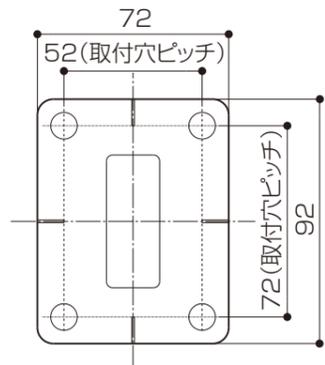


【パターン2】 階段手すりと吹抜け手すりが直行して取付く場合

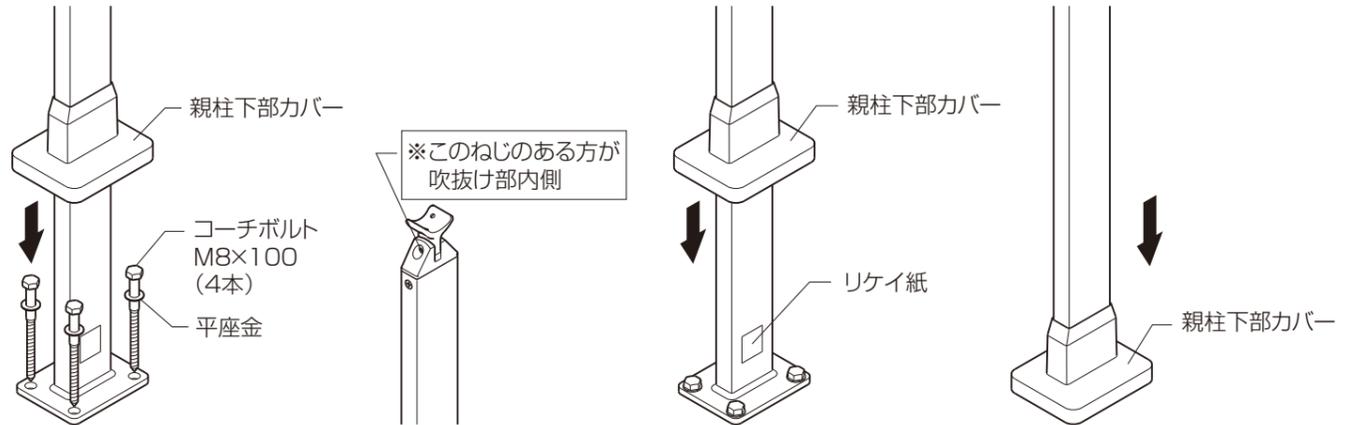


## 2 親柱の取付け

- ①親柱の割付けにしたがって親柱の取付け位置を決めた後、親柱ベース図の固定穴の位置に下穴(φ6mm)をあけます。
- ②コーチボルトに平座金(呼び経8)を入れ、4本のコーチボルトを床に取付けます。  
親柱には向きがありますので、取付けの際にはご注意ください。(下図※印参照)
- ③両面テープ(片面)のリケイ紙をはがし、親柱下部カバーをベースまで下げて固定します。

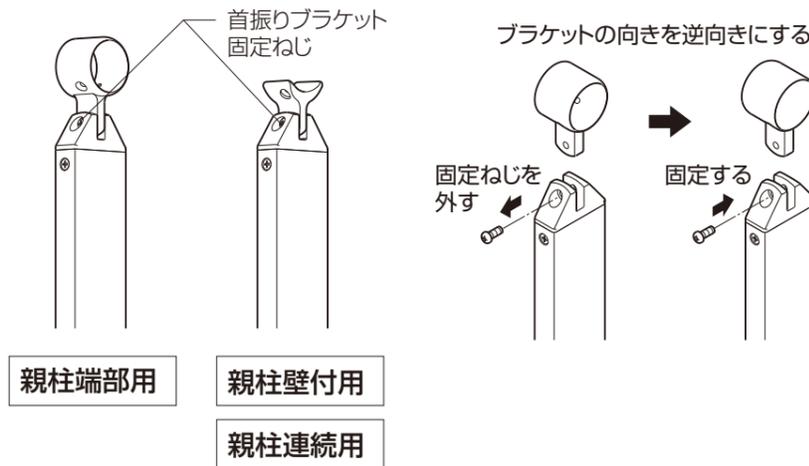


吹抜け用親柱ベース図

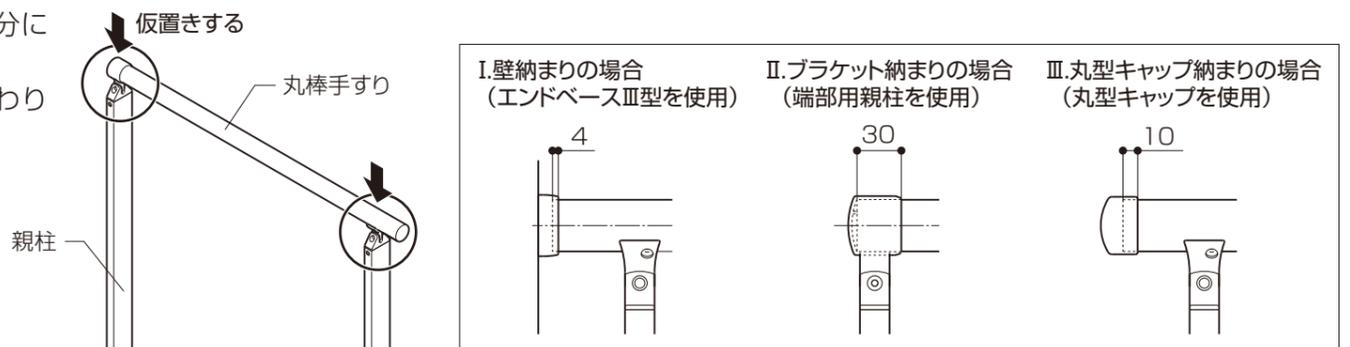


## 3 丸棒手すり(φ35)の取付け

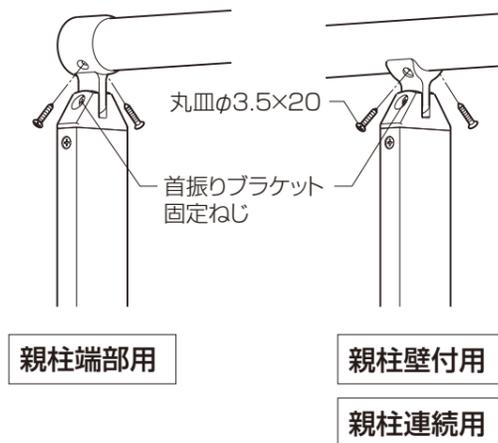
- ①首振りブラケットを固定しているねじをゆるめ首振りブラケット部が水平になるように固定します。  
親柱端部用には方向性があります。向きが違う場合、首振りブラケット固定ねじを外しブラケットを逆向きに取付け直します。



- ②丸棒手すりを親柱の首振りブラケット部分に仮置きし手すりの寸法出しを行います。  
I、II、IIIの納まりで手すりの長さが変わります。(右図参照)



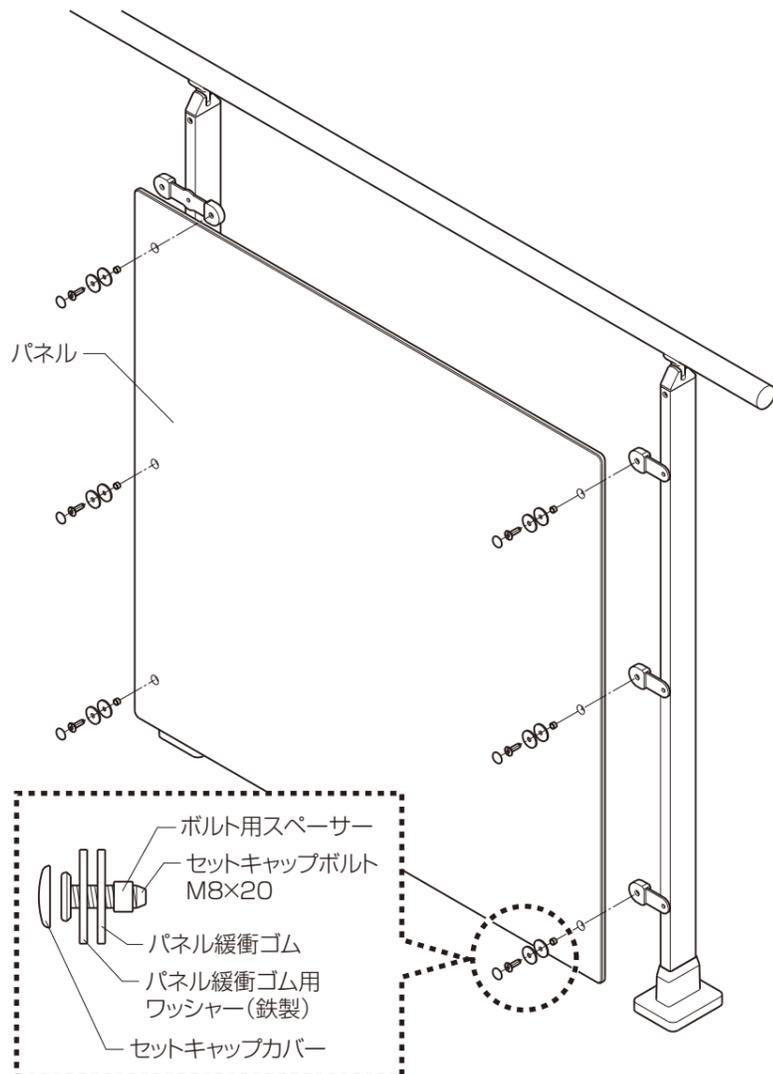
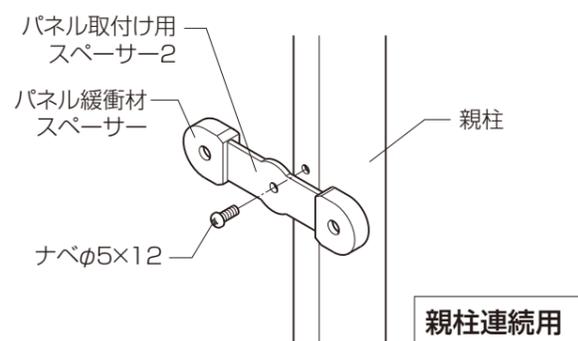
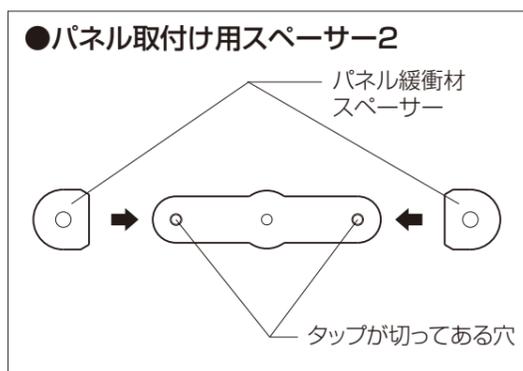
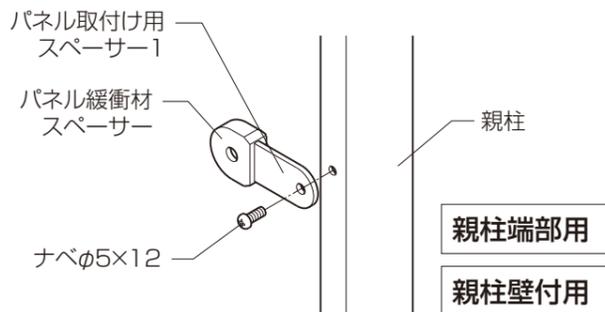
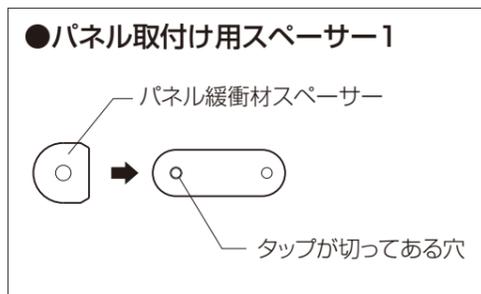
- ③丸棒手すりに親柱の首振りブラケットとねじ止め部下穴(φ2.5mm)をあけ、丸棒手すりと首振りブラケット部をねじ(丸皿φ3.5×20)で固定します。丸棒手すりと首振りブラケットの間にすき間が出ないように、両側から調整しながらねじを取付けます。
- ④丸棒手すり固定後、首振りブラケットを固定しているねじを本締めします。



※エンドベースⅢ型、丸型キャップの取付け方法は「手すり丸型」の取付け説明書を参照してください。  
※丸棒手すりを接続する場合はP.7を参照してください。

#### 4 パネルの取付け

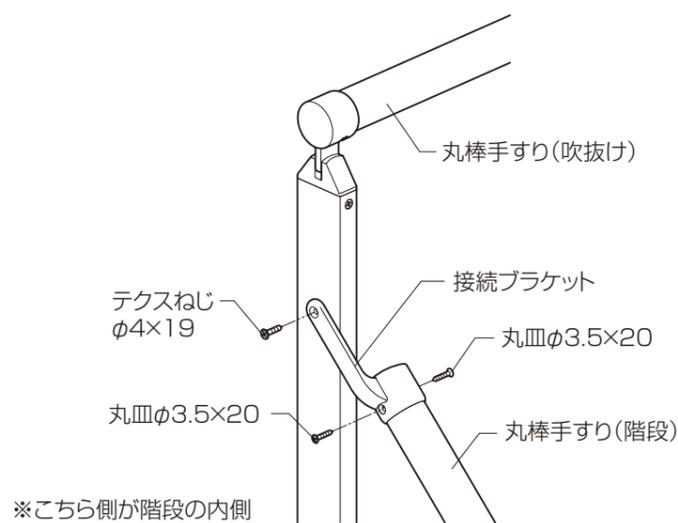
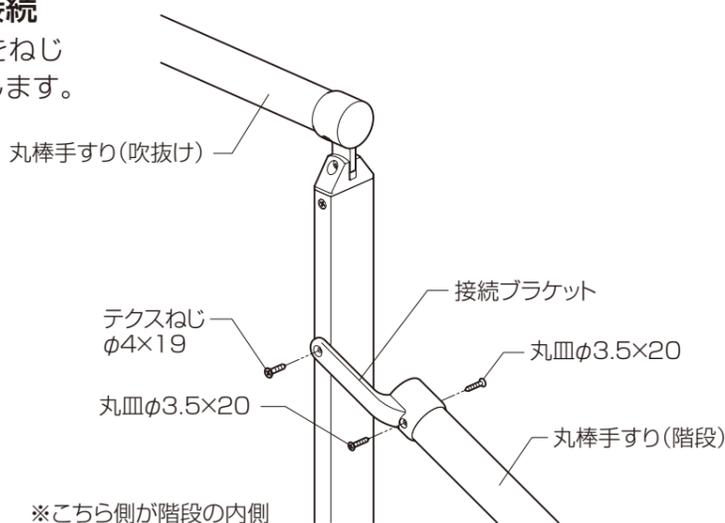
- ①パネル取付け用スペーサー1、2のタップが切っている穴にパネル緩衝材スペーサーをはめ込みます。
- ②親柱にパネル取付け用スペーサー1、2をねじ（ナベM5×12）で水平に固定します。
- ③セットキャップボルト（M8×20）に、パネル緩衝ゴム用ワッシャー（鉄製）、パネル緩衝ゴム、ボルト用スペーサーの順番にはめ込み、パネルを挟込みボルトを固定します。
- ④パネルと親柱のすき間を見ながら位置調整をし、ねじ（ナベM5×12）、セットキャップボルト（M8×20）を本締めします。
- ⑤セットキャップボルト（M8×20）にセットキャップカバーを取付けます。



#### 【縦横タイプ・パネルタイプ共通】

##### ■階段手すりと吹抜け親柱の接続

- 接続ブラケットと吹抜け用親柱をねじ（テクスねじφ4×19）で固定します。

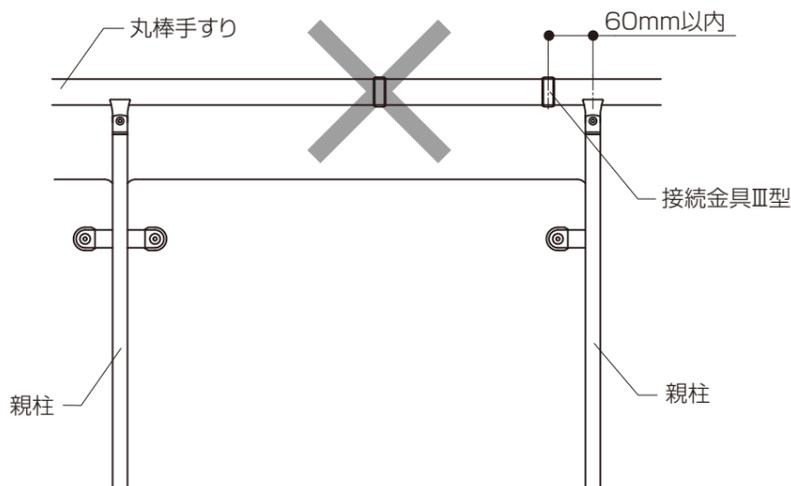
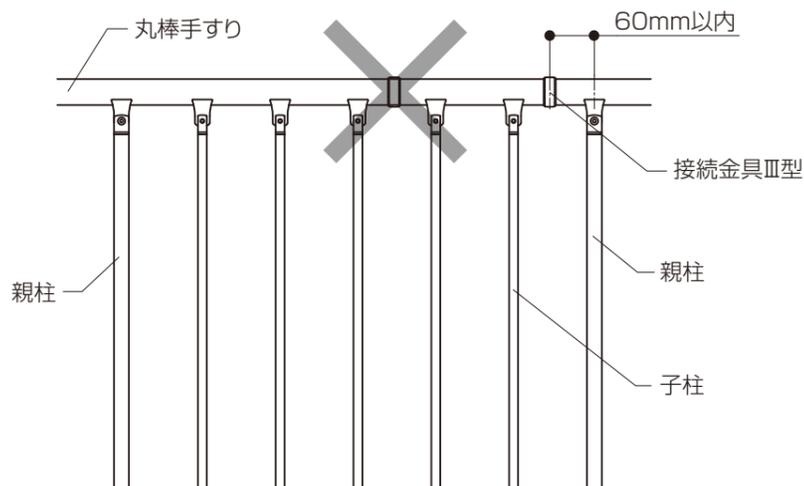


##### ■丸棒手すりを接続する場合

- 接続金具Ⅲ型を使用して接続します。接続金具Ⅲ型の取付け方法は「手すり丸型」の取付け説明書を参照してください。

#### ▲注意

- 接続金具Ⅲ型は親柱間隔以内に1個を親柱芯より60mm以内に取付けてください。



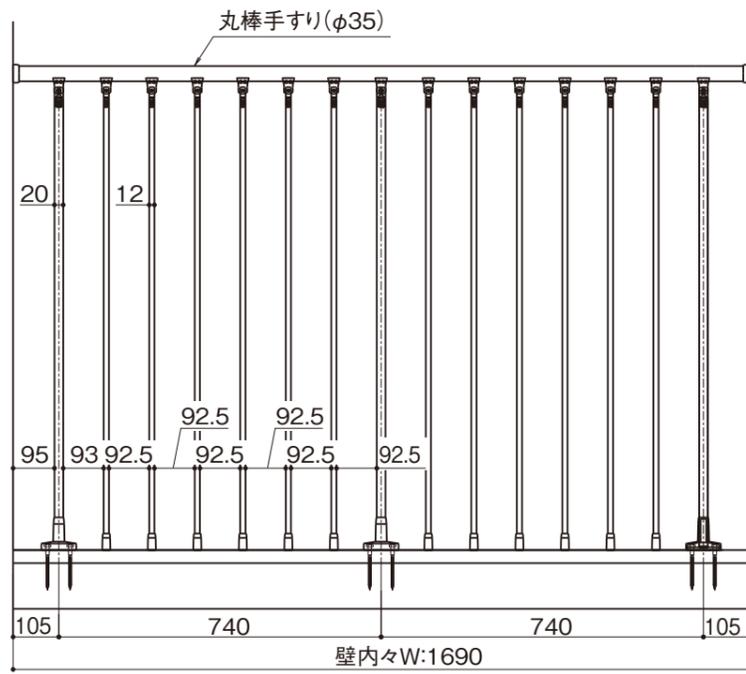
#### ■施工後の確認

- 施工が完了したら、手すりにガタツキがないか、ねじが確実に締結されているか確認します。ゆるみがあれば確実に締直します。

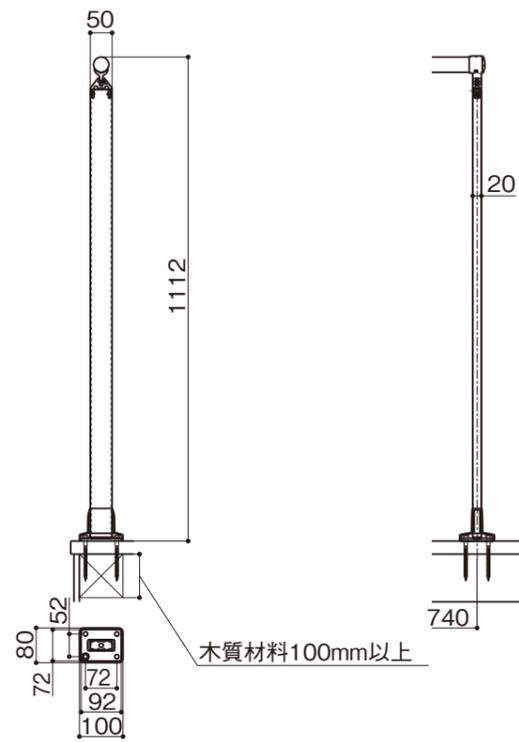
■参考納まり図

■縦棧タイプ

両側壁納まり

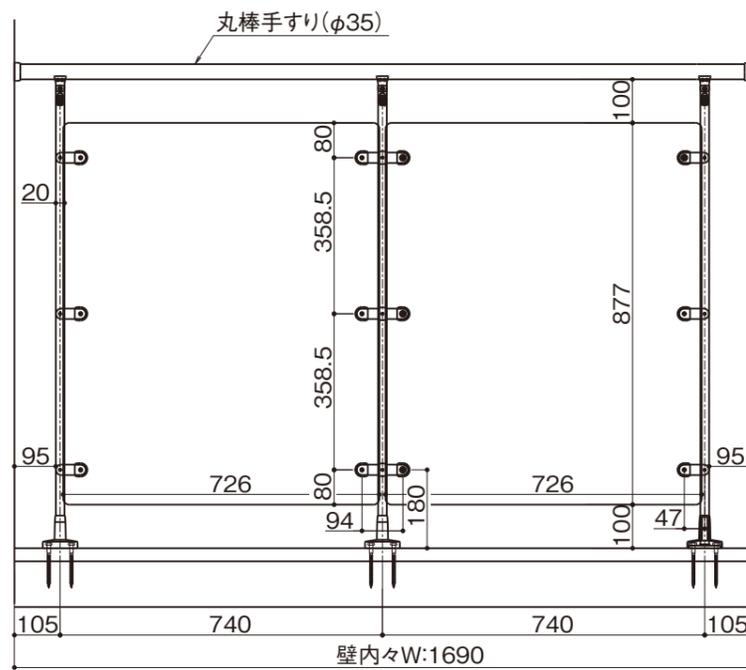


片側壁納まり



■パネルタイプ

両側壁納まり



片側壁納まり

